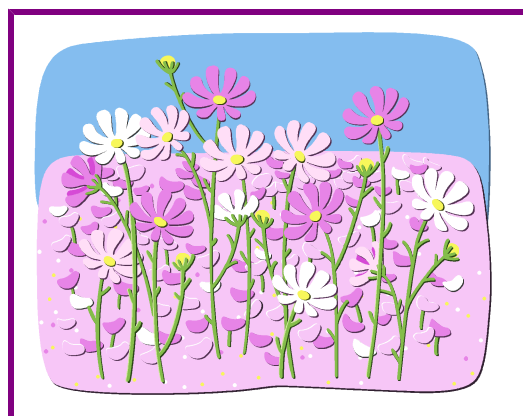


めぐみイエス・キリスト教会

2020年9月20日(日)第三主日礼拝
週報「通算第524号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年9月20日 第三主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.59第Ⅰヨハネの手紙第4章抜粋 p. 927

【賛美Ⅱ】 新聖歌515「わが罪のために」 p. 819

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「神の都へ」

【聖書朗読】 使徒の働き5章1節～11節(2017新約p. 240下段)

【礼拝説教】 《アナニヤとサツピラ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き5章1節～11節

- 5:1 ところが、アナニアという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、
5:2 妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた。
5:3 すると、ペテロは言った。「アナニア。なぜあなたはサタンに心を奪われて聖霊を欺き、地所の代金の一部を自分のために取っておいたのか。
5:4 売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったのではないか。どうして、このようなことを企んだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」
5:5 このことばを聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。
5:6 若者たちは立ち上がって彼のからだを包み、運び出して葬った。
5:7 さて、三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入

って来た。

5:8 ペテロは彼女に言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのか。私に言いなさい。」彼女は「はい、その値段です」と言った。

5:9 そこでペテロは彼女に言った。「なぜあなたがたは、心を合わせて主の御霊を試みたのか。見なさい。あなたの夫を葬った人たちの足が戸口まで来ている。彼らがあなたを運び出すことになる。」

5:10 すると、即座に彼女はペテロの足もとに倒れて息絶えた。入って来た若者たちは、彼女が死んでいるのを見て運び出し、夫の側に葬った。

5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。

●ポイント1.エルサレム教会の現状とは？

※使徒の働き4章32節～35節「初代教会の様子」(新約p.236上段左側)

●ポイント2.「アナニア」(新改訳二版「アナニヤ」)と「サツピラ」とは？

■アナニア 「主は恵み深い」という意味。妻サツピラと共謀して、土地の代金を一部残して、偽りを言った為、ペテロの言葉によって息絶えた。

■サツピラ 「美しい」という意味。夫アナニアと共謀して、地所を売った代金を「すべて」と偽って報告した為、神に打たれて息絶えた。

●ポイント3. この事件の真相とは？

※エゼキエル書18章21節～23節「悪しき者の死」 (旧約p.1443上段)

18:21 しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、私のすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。死ぬことはない。18:22 彼が行ったすべての背きは覚えられることがなく、彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。18:23 私は悪しき者の死を喜ぶだろうか、【神】である主の言葉。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。

※マタイの福音書18章21節～22節「主イエス様の言葉」(新約p.37下段)

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「私は七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」

◎先週のメッセージの概要【共同体？】

《ルカは、初期エルサレム教会の姿を描いています。それによりますと、「信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、誰一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。」となっています。

さて、五旬節の日に約束の聖霊が降られ、三千人の兄弟が新しく加えられました。そして美しの門に置かれた物乞いのいやしの奇跡によって、さらに二千人が救われ、教会は、五千人まで一気にふくれ上がります。

彼らは、土地や家を売って、その代金を使徒の足下に置きました。なぜなら主イエスが命じられた通り、そこには「愛」があったからです。

『私は新しい戒めを与えます。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるようになります。』

これこそが「愛の共同体」なのでしょう。実は、ここにも神様の不思議な摂理が働いていました。救われた五千人の兄弟たちは、非常に裕福な人たちでした。よって彼らが売った土地と家は、エルサレムおよびエルサレム郊外にある物件です。彼らは、自分たちが本当に住んでいる家と土地を売ったのではないのです。やがてサウロによる、エルサレム教会に対する迫害が起こります。その時、彼らにはもはや、エルサレムに住む家も場所もありませんから、やむなく故郷に戻ることになるのです。

逃げ戻った彼らは、自分たちの国において熱心に伝道し、教会は一気に、ローマ帝国中に広まって行くのです。使徒たちだけはエルサレムに留まります。そしてその後のエルサレム教会は、貧しくなるばかりになり、それゆえ異邦人の教会が献金を持って応援にやって来るのです。

さて、使徒の働き第4章には、異邦人伝道の為に、パウロと共に無くてはならない人物が初めて登場します。それがバルナバ(慰めの子)です。

もしバルナバが存在しなかったのなら、使徒パウロは果たして誕生したでしょうか。バルナバの使命は、本当に大いなるものであったのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、9月27日(日)教会にて行ないます。第二礼拝はありません。また、聖書の学びと祈り会は、水曜日に各家庭にて行ないます。